

10月1日 月は隈なきを

兼好法師の『徒然草』の中に、「花は盛りに」という章段がある。花は盛りの時だけを、月は雲一つないときだけを美しいと言って愛でるものであろうか、いや、そうではない。花が芽吹くときや風に散りゆく様、月に雲がかかった様子にも風情があるではないか、という話。兼好らしいひねくれたものの捉え方だが、裏を返せば、晴れやかで美しいという「理想」に届いていないからこそ、人の心は動くのだ、ということである。

月を心穏やかに眺める……。時間に追われる現代人にとって、実は難しいことかもしれない。いろいろなことに気をとられてふと気づくと日付が変わっている。そんな繰り返しの中で、当たり前のように頭上に輝く月を見る心の余裕が、果たしてあるのだろうか。

昨日、「校長先生、明日は名月ですよ」と理科のA先生が校長室に現れた。ニコニコしながら蘊蓄を語ってくれたが、去り際に、「忙しいのに、また無駄な時間を過ごしてしまった」と捨て台詞。彼が名月を愛でるほどの心の余裕を持てる日は、いつ来るのだろうか。

今日10月1日は「中秋の名月」。旧暦の8月15日に当たる日だ。残暑の厳しかった今年、ここ数日は秋の爽やかな日が続いている。今宵は虫の音に癒やされながら月を愛で、団子でもつまもうか。

